

**大粒な米づくり
で、食味向上！**

平成30年
夷隅地域水稻生育情報
第2報

平成30年6月19日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 82-2213

- ・生育の進みが早く、草丈や茎数も旺盛な傾向にあります。
- ・いもち病や紋枯病で減収する事例が、飼料用米で多く見受けられます。飼料用米でも共同防除を行いましょう。

1. 【今年の生育状況について】

夷隅地域における主要3品種の生育状況は表1のとおりです。

幼穂形成期(幼穂1mm、出穂前25日)は例年と比較して2～4日ほど早くなっています。

表1：定点調査ほ場の生育状況（6月19日現在）

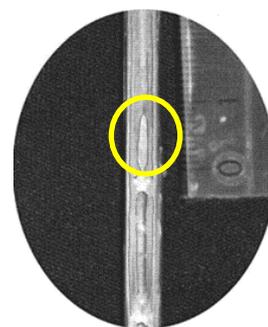
品種名	調査場所	田植え日	平年比			幼穂形成期
			葉齢の進み	草丈	茎数	
ふさおとめ	いすみ市市島	4月13日	やや早い	長い	少ない	6月11日
ふさこがね	大多喜町下大多喜	4月20日	早い	長い	多い	6月11日
コシヒカリ	いすみ市松丸	4月16日	やや早い	長い	やや多	6月18日(予測)

2. 【適期に穂肥施用をするために】

6月中、下旬頃より、カッター等で主茎を縦に割って幼穂長を確認することで、出穂までの日数が推測できます。幼穂長1mm程度で出穂まで25日、1cm程度で出穂まで18日です。

安定した収量の確保や倒伏を防ぐために、適期に穂肥施用をすることが重要です。登熟期間の短いふさおとめは、出穂前25日～18日に、ふさこがね、コシヒカリは出穂前18日に施用しましょう。

前述の主要3品種の施肥量は、窒素と加里をそれぞれ成分量で各3kg/10aが目安となっています。



幼穂長1.0cm時の断面図

3. 【いもち病・紋枯病の対策について】

(1) いもち病

いもち病は 25～28℃、低日照多湿で発生が多い病気です。上位葉で発生する「葉いもち」が、「穂いもち」に移行して減収を招くため、早い段階での防除が必要です。

6月13日付けの病害虫発生予報では、**やや多**と予想されています。

(2) 紋枯病

紋枯病は 30～32℃、多湿で発生が多い病気です。特に多肥栽培の傾向にある飼料用米専用品種で発生が多く、減収を招きます。

6月13日付けの病害虫発生予報では、**やや多**と予想されています。



葉いもち病 (JPP-NET より引用)

表2：主ないもち病・紋枯病の防除剤

薬剤名	対象病害虫	使用量 (/10a)	使用方法	使用時期・回数
フジワン粒剤	いもち病	3～5kg	湛水散布	葉いもち：初発7～10日前 穂いもち：出穂10～30日前 収穫30日前まで 2回以内
モンカット粒剤	紋枯病	3～4kg	湛水散布	出穂10～30日前 収穫14日前まで 3回以内

4. 【斑点米カメムシ類の防除について】

斑点米カメムシ類対策として、出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行うことが重要です。また、ほ場内のヒエやホタルイも誘引源となるので、事前に除草剤で防除しましょう。穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内に多発している場合は、薬剤防除を行きましょう。

表3：主な斑点米カメムシ類の防除剤

なお、6月13日付けの病害虫発生予報では、**やや多**と予想されています。

薬剤名	使用量 (/10a)	使用時期・回数
エルサンバッサ粉剤20DL	3～4kg	収穫7日前まで 2回以内
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで 3回以内
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで 3回以内